

3 地域での援農ボランティアの推進

農業に関心を持つ地域住民の参加・協力により地域の農業者を支援するため、多くの都内自治体が援農ボランティアの育成、紹介などの取り組みを行っていました。

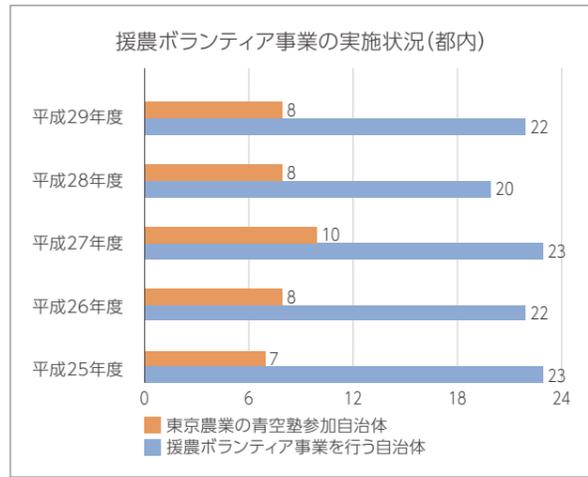
なお、募集方法は自治体広報誌・ホームページなどが多く、原則として、当該地域に在住・在勤の方が対象でした。



地域で活動する援農ボランティア

東京の青空塾事業の紹介

東京の青空塾事業では、農業に関心を持つ都民を対象に、農作業体験や農業者との交流などを通じて農業の意義や役割について理解を深めてもらい、農家の方と共に安全で新鮮・良質な農産物等の生産を担う、東京農業の支え手である「援農ボランティア」を養成し、認定を行ってきました。平成8年度から東京都の事業として始まり、平成13年度からは（公財）東京都農林水産振興財団が自主事業として実施してきました。

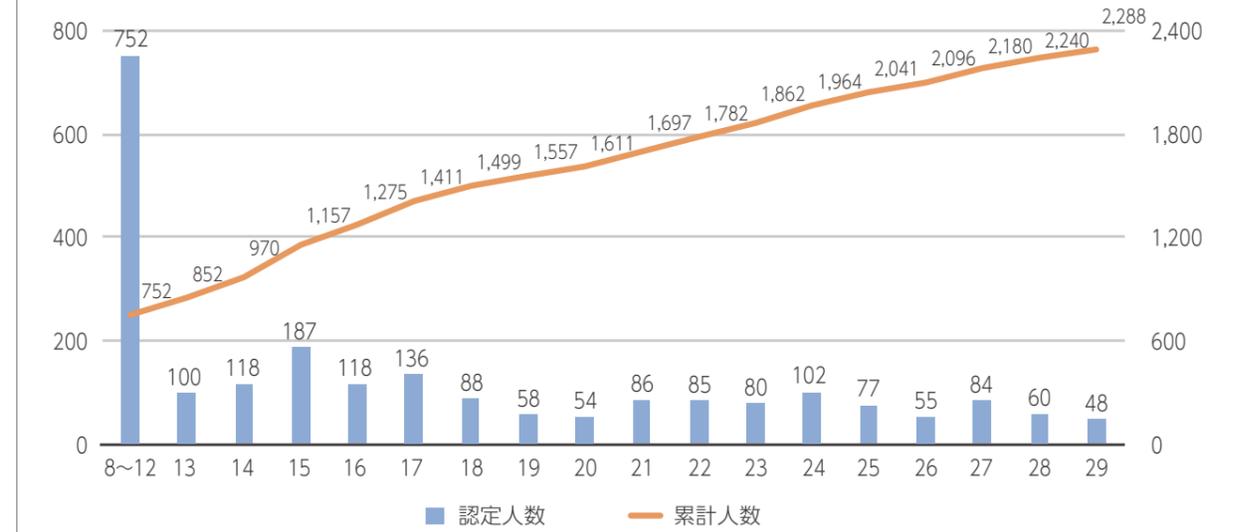


※（公財）東京都農林水産振興財団が40区市町村を対象に調査

事業の概要

- ① 東京の青空塾事業に参加している地域推進組織（区市町村、JA）が、広報誌等を通じて援農ボランティア養成講座の受講生を募集
 - ② 専門コース毎に援農ボランティア養成講座を実施
 - ・講座の種類 野菜、花き、果樹、植木の専門コースから1人1コース（地域により種類は異なる）
 - ・講座の内容 受入農家での地域研修（農作業実習）（10回）
（公財）東京都農林水産振興財団での中央研修（講義2回、東京都農業祭の視察1回）
 - ③ （公財）東京都農林水産振興財団が、養成講座修了者を「援農ボランティア」に認定し、認定証を交付
 - ④ 地域推進組織（区市町村、JA）が修了者を「援農ボランティア」として登録し、受入農家に派遣
- 毎年度50～100名程度、これまでに2,000名以上の方が「援農ボランティア」として認定されました。認定後は地域で「援農ボランティア」として活躍してきました。

援農ボランティア認定人数の推移
(東京農業の青空塾)



集合研修(東京都農業祭視察)



集合研修(都農林総合研究センター見学)

長期継続援農ボランティアの表彰

（公財）東京都農林水産振興財団では、東京の青空塾事業で援農ボランティアとして認定された方のうち、累計5年以上援農活動を継続されている方を長期援農ボランティアとして表彰してきました（平成29年度末現在131名）。



長期継続援農ボランティアの表彰